



Road Since 1927

～組織を知り、組織を愛す。～



Vol.4

Today's topic

- ① 創部のきっかけ
- ② 慶應義塾体育会とは
- ③ クラブから体育会へ

01 創部のきっかけ

諸説あるが、日本各地のサッカー先進地から何人かの高校生たちが慶應義塾大に進学し、学内でボールを蹴り始めたことがクラブを結成したはじまりと言われる。1921年、深山静夫氏が学内の有志を集めて「慶應ブルー・サッカー倶楽部」を創部。同年に「慶應アソシエーション・フットボール・クラブ」に改名。部員は14人～15人くらい。練習は週に3、4回だが、試合のほか全員が揃ったことは滅多になかったという。またグラウンドもなかったため、ラグビーや軍教のない日に三田綱町グラウンドを使った。都合の悪い日には青山師範へ“押しかけ試合”に行ったり、鉄製の移動ポストと太い縄を担いで芝公園までユニフォーム姿で歩いていった。脱衣は近所の銭湯。グラウンドを求めて彷徨うことが日常だった。

02 慶應義塾体育会とは

福沢諭吉先生の著書「西洋事情」の一部には以下のような文が記されている。

「(西洋の学校では)四肢を運動し、苦学の鬱閉を散じ身体を健康を保つ」

この文からも分かるように、福沢諭吉先生は教育における体育の重要性をいち早く認識し、ジムナスチックの法を定めて西洋流の体育思想を取り入れた。これを機に本塾では各運動部が次々と作られていき、1892年5月、組織的に統一するため慶應義塾体育会が創設された。現在58部門(細かい部門も分けた場合の数)が登録されている慶應義塾体育会は、学生スポーツ発展は疎か日本スポーツの発展にも寄与してきたのである。

サッカー部クイズ

この中で体育会創設時に入っていなかったスポーツはどれでしょう？

- ① 剣道 ② ラグビー ③ ボート

正解は、②ラグビーでした!

知恵袋

ちなみに、体育会創設時は柔術(現柔道)、剣術(現剣道)、野球、端艇、弓術、操練、徒歩の7競技が登録されていました。

03 クラブから体育会へ

1921年に故深山静雄氏ら有志によって誕生した「慶應アソシエーション・フットボール・クラブ」。そのころ一般的であったフットボールあるいは蹴球という言葉がクラブ名につけることは、体育会のなかの先輩であったラグビー部の反対で許されず、そのころ日本ではなじみの少なかったサッカーという言葉を使うことになった。そして、初代サッカー部主将の濱田諭吉氏の命名で「SOCCER」の発音がソに近い発音であるという解釈のもと名付けられた。1927年(昭和2年)に正式に大学公認の体育会の部となった。



←合宿所に飾ってある1枚。体育会加盟した時の集合写真。

Pick Up Player

濱田 諭吉選手

慶應サッカー部初代主将。彼はサッカー歴2年で、慶應入学後からサッカーを始めるといって今では考えられないほどの晩学である。当時彼が一番最年長であったことから主将に選ばれた。基礎技術は初歩で決して上手くはなかったが、誠実さと体力は抜群であった。ドイツのオットー・ネルトの著書「フスバル」を莫大な時間をかけて自力で全訳し、それまでの日本では誰も見たことのないサッカー観を部員に見せた逸話もある。経験なし、技術なし、コーチなしの時代において不安とともに誠実さや責任感を持ち開拓していったサッカー部史において欠かせない存在である。彼の哲学と当時のサッカー部の在り方は現在我々においても当てはまることであり最初の大きな道標を作ってくれた。



↑ストイックで思索派。滅多に話さないが必要な時は意見を堂々と述べることができ、人の長所を発見し伸ばしていく聡明さを持っていた。